

# 桐生山鳳仙寺全圖

鳳凰が飛び仙人が遊ぶ霊境の地  
永代供養／新墓地 分譲中 



 桐生山 鳳仙寺

群馬県桐生市梅田町1-58 (〒376-0601)  
TEL.[0277] 32-1177 FAX.[0277] 40-6000  
E-mail info@hosenji.or.jp  
ホームページアドレス <http://www.hosenji.or.jp>



# 鳳仙寺由緒略記

## ●鳳仙寺の概略

宗派	曹洞宗
山号	桐生山
寺号	鳳仙寺
本尊	釋迦牟尼如来
脇侍	文殊菩薩 普賢菩薩
開山	勅賜仏広常照禪師
開基	桐生城主由良信濃守成繁公
開山年	天正二年
寺格	曹洞宗常法幢別格地

境内地	7,876㎡ (2,386.85坪)
御朱印	10石
名田	100石余
本堂	330㎡ (100坪)
石梁閣	198㎡ (60坪・檀信館)
山門	49.5㎡ (15坪)
鐘楼	9.5㎡ (2.88坪)
輪藏	33㎡ (10坪)
常磐殿	330㎡ (100坪)
聴松庵	57.09㎡ (17.3坪・茶室)
庫裡	138.27㎡ (41.9坪)
駐車場	約300台乗用車駐車可能 (第1駐車場～第5駐車場)

## ●鳳仙寺の略歴

戦国末期から現在まで約四百四十年の法灯が維持されております。

寺域は、周囲を豊かな自然に抱かれて四季おりおりのたたずまいの中、静寂閑雅な緑陰の別天地が形成され、唐人白山の『鳳凰飛舞仙人遊樂之靈地也』から、寺号を『鳳仙寺』とし、瑞兆の帰結から山号を『桐生山』とされました。

天正二年(1574年)桐生城主由良成繁公は、名田百石余と共に、勅使門の備わった伽藍を創建し、自らの菩提所として『桐生山鳳仙寺』が開山されました。

開山さまは、朝廷より賜わった勅賜号・禪師号を冠する高僧であり、二世黙之宗禪師は、後年「室中の法宝」と驚嘆される「夢中間答」や能室な墨蹟で知られる学徳兼備の傑僧であり、三世大円門鶴大和尚は、学僧として高名で永平寺二十世の往持に普山されました。この頃の鳳仙寺では、常に四十人余の雲水が参禅修学し教導を受ける一大道場でありました。十六世乙堂喚丑禪師は、鳳仙寺版正法眼蔵を始め、宗門史上貴重な教義を数多く残し宗学の師として仰がれ貴重な自画像を描き遺しています。二十五世穆山瑾英禪師は、大本山總持寺独住三世に普住されるなど、多くの名僧を輩出しております。

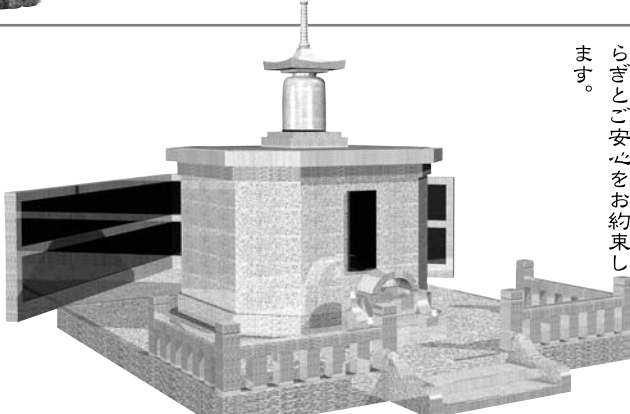


## ●鳳仙寺指定文化財と見どころ

- ①鳳仙寺本堂(桐生市指定重要文化財<建造物>)享保11年(1726)以前、入母屋造平入構造、銅板葺、市内唯一の八室構成からなる大規模な方丈形式本堂であり、かつ曹洞宗本堂の伝統的な形式をよく伝える貴重な建造物である。
- ②鳳仙寺常磐殿 平成21年(2009年)落慶。開山堂、位牌堂、秋葉堂、薬師堂の四つのお堂を併せ持った建物。
- ③鳳仙寺山門(市指定重要文化財)延宝元年(1704年)建立された三間一戸の楼門。
- ④鳳仙寺輪藏(市指定重要文化財)天明3年(1783年)の制作全体が容易に回転する稀少な様式が最大の特徴であります。
- ⑤鳳仙寺梵鐘(市指定重要文化財)寛永18年(1641年)に鑄造された市内最古、県内でも有数な古さを誇り、天命の代表的名工・藤原朝臣江田讃岐守安重による鑄造で、江田性に関わる梵鐘で現在まで完全に保存されている唯一の梵鐘であります。
- ⑥由良成繁の墓(桐生城・太田金山城城主・市指定史跡)、大野八右衛門の墓(徳川氏の代官・大久保長安の手代で桐生新町を造営)
- ⑦桐生七福神「毘沙門天」古くからインドの神として崇められ、多聞天とも称されていますが、手に持つ宝塔が限らない財宝を授与し、多聞(多くを聞き学び、知識を習得)し、武人として守護の力を発揮する、七福神の一つとされ金運、開運、厄除け、学業成就の神通力があると言われております。



永代供養費  
13万円より



永代供養塔

一般墓地  
一区画  
30万円より  
(1坪・3.3㎡)

お墓の供養祭祀の継承者のいない方、またご事情により、将来お墓を継承できない方のため当霊園が責任をもって、永代にわたりご供養し、おまもりいたします。お子様のいないご夫婦や生涯独身でいられる方々に、やすらぎとご安心をお約束します。

緑の林に囲まれた落ち着いた雰囲気です。ゆったりとした南向き。お車でお参りできます。